

令和6年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	佐賀県		市町村類型	Ⅲ-1		指定団体等の指定状況		区分	令和6年度(千円)	令和5年度(千円)	区分	令和6年度(千円・%)	令和5年度(千円・%)	
						財政健全化等	×							
市町村名	唐津市		地方交付税種地	1-3		財源超過	×	歳入総額	89,713,035	85,819,024	実質収支比率	5.0	2.1	
人口	令和2年国調(人)	117,373	産業構造(※5)		中部	×	歳出総額	86,880,713	84,417,130	経常収支比率	89.7	89.3		
	平成27年国調(人)	122,785			首都	×	歳入歳出差引	2,832,322	1,401,894	(※1)	(90.0)	(89.8)		
	増減率(%)	-4.4			近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	1,047,387	659,778	標準財政規模	35,447,284	34,670,896		
住民基本台帳人口(※7)	令07.01.01(人)	113,890	第1次	令和2年国調	5,930	7,008	低開発	○	実質収支	1,784,935	742,116	財政力指数	0.43	0.43
	うち日本人(人)	112,721		10.7	12.1	過疎	○	単年度収支	1,042,819	-1,449,042	公債費負担比率	17.5	17.2	
	令06.01.01(人)	115,475	第2次	増減率(%)	23.2	23.4	指数表選定	○	積立金	1,326	30,827	健全化判断比率	-	-
	うち日本人(人)	114,490					12,895	13,477	山振	○	繰上償還金	0	0	実質赤字比率
	増減率(%)	-1.4	第3次	うち日本人(%)	-1.5	36,706	37,208	積立金取崩し額	2,120,388	833,984	連結実質赤字比率	-	-	
	面積(km ²)	487.58						66.1	64.5	実質単年度収支	-1,076,243	-2,252,199	実質公債費比率	14.3
人口密度(人/km ²)	241	世帯数(世帯)	44,192	職員状況(※8)	ラスバイレス指数	97.8	基準財政収入額	13,716,632	13,505,687	資金不足比率(※4)	117.5	111.1		
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	85,684,727	87,302,287	地方債現在高のうち公的資金	64,042,880	63,761,755
	市区町村長	1	9,630		一般職員	1,136	3,562,496	3,136	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	68,395,970	68,057,519			
	副市区町村長	2	7,700		うち消防職員	179	555,258	3,102	債務負担行為額(支出予定額)	4,156,734	7,673,528			
	教育長	1	6,900		うち技能労務職員	64	218,368	3,412	収益事業収入	3,000,000	4,000,000			
	議会議長	1	5,030		教育公務員	8	31,696	3,962	土地開発基金現在高	1,667,774	1,662,282			
	議会副議長	1	4,590		臨時職員	-	-	-	積立金	1,885,396	3,604,459			
	議会議員	26	4,380		合計	1,144	3,594,192	3,142	現在高	837,386	748,876			
										減債基金	17,264,975		19,729,570	
								その他特定目的基金						
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧									
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名						(※3)	
(1) 一般会計		(5) 国民健康保険特別会計		(8) 水道事業会計		(13) 国民宿舎特別会計		(14) 佐賀県後期高齢者医療広域連合		(18) 唐津市土地開発公社			○	
(2) 有線テレビ事業特別会計		(6) 介護保険特別会計(普通会計除く)		(9) 工業用水道事業会計				(15) 佐賀県後期高齢者医療広域連合(医療)		(19) 公益財団法人唐津市文化事業団				
(3) 介護保険特別会計(普通会計分)		(7) 後期高齢者医療特別会計(普通会計除く)		(10) 下水道事業会計				(16) 佐賀県市町総合事務組合		(20) 株式会社桃山天下市				
(4) 後期高齢者医療特別会計(普通会計分)				(11) 市民病院きたはた事業会計				(17) 佐賀県市町総合事務組合(交通災害)		(21) 株式会社鳴神の庄				
				(12) モーターボート競走事業会計						(22) 株式会社鳴神温泉				
										(23) 株式会社キコリなやま				
										(24) 公益財団法人唐津市スポーツ協会				
										(25) 株式会社肥前風力エネルギー開発				

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※8: 職員の状況については、調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（市町村）

歳入の状況（単位 千円・％）					地方税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	12,919,257	14.4	12,919,257	36.0	普通税	12,895,956	99.8	127,934	
地方譲与税	584,068	0.7	584,068	1.6	法定普通税	12,895,956	99.8	127,934	
利子割交付金	4,934	0.0	4,934	0.0	市町村民税	5,178,498	40.1	127,934	
配当割交付金	75,642	0.1	75,642	0.2	個人均等割	171,687	1.3	-	
株式等譲渡所得割交付金	93,347	0.1	93,347	0.3	所得割	4,297,288	33.3	-	
分離課税所得割交付金	-	-	-	-	法人均等割	261,885	2.0	-	
地方消費税交付金	3,007,126	3.4	3,007,126	8.4	法人税割	447,638	3.5	127,934	
ゴルフ場利用税交付金	35,709	0.0	35,709	0.1	固定資産税	6,224,095	48.2	-	
自動車取得税交付金	-	-	-	-	うち純固定資産税	6,131,400	47.5	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	508,814	3.9	-	
自動車税環境性能割交付金	50,855	0.1	50,855	0.1	市町村たばこ税	984,549	7.6	-	
法人事業税交付金	238,915	0.3	238,915	0.7	鉦産税	-	-	-	
地方特例交付金等	579,103	0.6	579,103	1.6	特別土地保有税	-	-	-	
住宅借入金等特別税額控除減収補填特例交付金	105,118	0.1	105,118	0.3	法定外普通税	-	-	-	
定額減税減収補填特例交付金	467,124	0.5	467,124	1.3	目的税	23,301	0.2	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金	6,861	0.0	6,861	0.0	法定目的税	23,301	0.2	-	
地方交付税	20,091,160	22.4	18,146,334	50.6	入湯税	23,301	0.2	-	
普通交付税	18,146,334	20.2	18,146,334	50.6	事業所税	-	-	-	
特別交付税	1,944,826	2.2	-	-	都市計画税	-	-	-	
震災復興特別交付税	-	-	-	-	水利地益税等	-	-	-	
（一般財源計）	37,680,116	42.0	35,735,290	99.6	法定外目的税	-	-	-	
交通安全対策特別交付金	16,051	0.0	16,051	0.0	旧法による税	-	-	-	
分担金・負担金	829,286	0.9	2,881	0.0	合計	12,919,257	100.0	127,934	
使用料	1,024,962	1.1	69,842	0.2					
手数料	438,424	0.5	-	-					
国庫支出金	13,890,335	15.5	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-					
都道府県支出金	7,250,012	8.1	-	-					
財産収入	152,900	0.2	41,078	0.1					
寄附金	5,582,614	6.2	-	-					
繰入金	10,653,437	11.9	-	-					
繰越金	1,001,894	1.1	-	-					
諸収入	4,680,655	5.2	5,205	0.0					
地方債	6,512,349	7.3	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	99,349	0.1	-	-					
歳入合計	89,713,035	100.0	35,870,347	100.0					

歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	325,519	0.4	-	325,296
総務費	19,703,944	22.7	4,723,587	7,569,512
民生費	26,312,179	30.3	132,206	12,050,963
衛生費	4,866,353	5.6	688,591	3,082,763
労働費	56,369	0.1	-	6,369
農林水産業費	3,333,900	3.8	1,112,518	1,029,381
商工費	2,544,779	2.9	148,341	1,154,353
土木費	5,870,068	6.8	1,611,707	3,819,840
消防費	2,690,041	3.1	474,565	1,816,846
教育費	9,565,229	11.0	2,284,996	4,299,099
災害復旧費	3,105,471	3.6	-	517,107
公債費	8,410,338	9.7	-	8,185,099
諸支出金	96,523	0.1	94,400	96,523
前年度繰上充用金	-	-	-	-
歳出合計	86,880,713	100.0	11,270,911	43,953,151

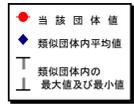
性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	37,384,690	43.0	24,097,164	21,855,503	60.8
人件費	11,165,691	12.9	10,036,485	9,456,266	26.3
うち職員給	6,784,817	7.8	6,295,834	-	-
扶助費	17,808,661	20.5	5,875,580	4,214,138	11.7
公債費	8,410,338	9.7	8,185,099	8,185,099	22.8
元利償還金	8,408,216	9.7	8,182,977	8,182,977	22.7
うち元金	8,129,909	9.4	7,919,884	7,919,884	22.0
うち利子	278,307	0.3	263,093	263,093	0.7
一時借入金利子	2,122	0.0	2,122	2,122	0.0
その他の経費	35,119,641	40.4	18,303,613	10,423,555	29.0
物件費	14,456,195	16.6	5,824,821	4,709,808	13.1
維持補修費	277,483	0.3	157,006	138,563	0.4
補助費等	7,294,374	8.4	3,833,013	1,227,632	3.4
うち一部事務組合負担金	11,526	0.0	11,526	11,526	0.0
繰出金	5,597,496	6.4	4,508,886	3,908,848	10.9
積立金	6,157,498	7.1	3,346,292	-	-
投資・出資金・貸付金	1,336,595	1.5	633,595	438,704	1.2
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	14,376,382	16.5	1,552,374	-	-
うち人件費	153,493	0.2	153,493	-	-
普通建設事業費	11,270,911	13.0	1,035,267	-	-
うち補助	2,354,079	2.7	68,114	-	-
うち単独	8,677,082	10.0	956,648	-	-
災害復旧事業費	3,105,471	3.6	517,107	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	86,880,713	100.0	43,953,151	-	-

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	8,741,584	実質収支	473,411
下水道	2,752,669	再差引収支	265,583
上水道	238,777	加入世帯数(世帯)	14,617
病院	150,519	被保険者数(人)	23,050
観光施設	25,324	被保険者	112
国民健康保険	1,269,962	1人当り	433
その他	4,304,333		

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	113,890	人(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	112,721	人(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	487.58	km ²	実質公債費比率	14.3	%
歳入総額	89,713,035	千円	将来負担比率	117.5	%
歳出総額	86,880,713	千円	市町村類型	R02 Ⅲ-1 R03 Ⅲ-1 R04 Ⅲ-1	
実質収支	1,784,935	千円	(年度毎)	R05 Ⅲ-1 R06 Ⅲ-1	
標準財政規模	35,447,284	千円			
地方債現在高	85,684,727	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。
 ※「定員管理の状況」の「人口1,000人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレス指数」については、各調査対象年度の地方公務員給与実態調査に基づいている。

令和6年度

佐賀県唐津市

将来負担の状況

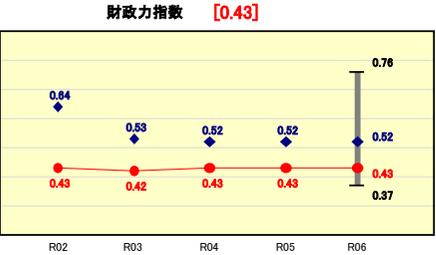


類似団体内順位 9/10 全国平均 6.2 佐賀県平均 0.0

将来負担比率の分析欄

R6年度は、地方債現在高の減などにより将来負担額が減少したものの、充当可能基金の減に伴い充当可能財源等が減少したため、比率は悪化した。しかしながら、類似団体平均と比較すると80.5ポイント上回っており、高い水準となっている。今後も、有利な起債の活用を基本とし純地方債残高の削減を図るとともに、公営企業の経営健全化による繰出金の削減を図り財政の健全化に努める。

財政力

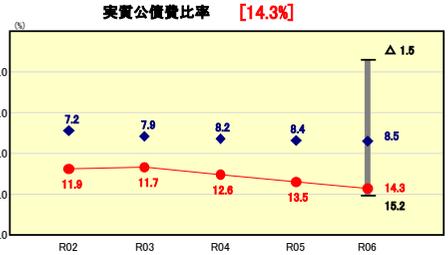


類似団体内順位 8/10 全国平均 0.49 佐賀県平均 0.51

財政力指数の分析欄

R2年度から0.42~0.43の横ばいで推移し、R6年度は0.43で、類似団体平均を大きく下回っている。これは、市の産業構造が中小企業や農林水産業を中心としており、歳入における市税の割合が低く、財政基盤が弱いことが要因である。今後とも、的確な課税客体の把握と徴収率向上に努めるとともに、総合計画に基づく事業の重点化などにより歳出抑制に努め、財政計画に基づく適正な財政運営を行う。

公債費負担の状況

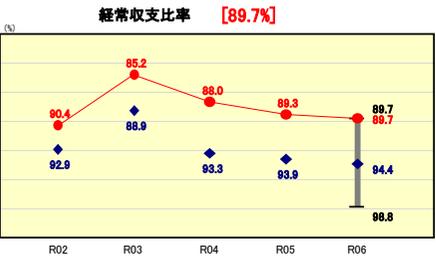


類似団体内順位 9/10 全国平均 5.6 佐賀県平均 7.6

実質公債費比率の分析欄

R6年度は、分子に参入する(新)緊急防災・減災事業債、公施設等適正化管理推進事業債等の元利償還金が増加したことに加え、分母に算入する臨時財政対策債発行可能額が減少したことで、分母自体は増加したものの分子の増加幅がより大きかったため、R5年度と比較して0.8ポイント悪化した。また、類似団体との比較では、5.8ポイント上回っており、依然として高い比率である。今後も、唐津市財政計画の数値を目標に公債費の抑制に努めるとともに、公営企業の経営健全化による繰出金の削減を図るなど健全な財政運営に努める。

財政構造の弾力性

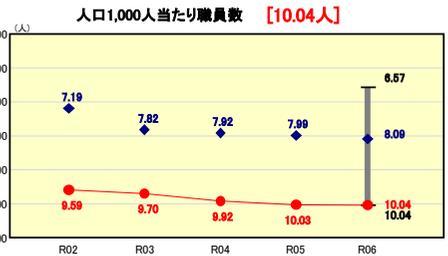


類似団体内順位 1/10 全国平均 93.8 佐賀県平均 92.3

経常収支比率の分析欄

R6年度は、維持補修費や補助費等が減少したものの、人件費、扶助費、物件費、公債費の増により、歳出全体としては増加した。歳入においても、地方税や使用料等が減少したものの、普通交付税や地方特例交付金等の増により、全体としては増加したが、経常一般財源を充当した歳出総額が経常収支比率の比率算定の分母である経常一般財源総額(歳入)の増加幅より大きかったため、前年度よりも0.4ポイント悪化した。今後も、定員管理計画に基づく職員定員適正化や公施設等総合管理計画に基づく公共建築物保有量の削減を図るとともに、事務事業の点検、見直しを進め義務的経費の削減に努める。

定員管理の状況

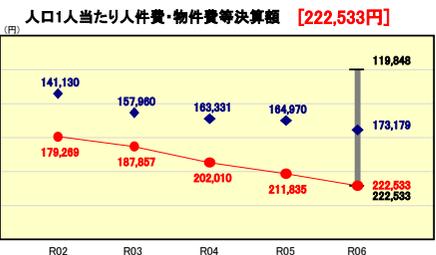


類似団体内順位 10/10 全国平均 8.41 佐賀県平均 8.05

人口1,000人当たり職員数の分析欄

大型合併により類似団体と比較し職員数が多く、また、市の面積が広いことにより支所を配置せざるを得ず、R6年度の職員数は類似団体平均を1.95人上回る10.04人となっている。R2年度と比較すると、類似団体が0.9人の増加に対し、0.45人の増加となっている。R5年度と比較し職員数は14人増加し、人口減の影響もあり人口千人当たり職員数も0.01人の増加となった。今後も、唐津市定員管理計画に基づき、適正な定員管理に努める。

人件費・物件費等の状況

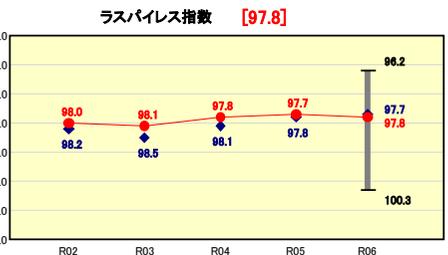


類似団体内順位 10/10 全国平均 189,281 佐賀県平均 182,470

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

給与改定に伴う基本給の増、勤勉手当の支給率の引き上げ等に伴うその他の手当等の増及び退職年齢等の発生による退職金の増等により人件費が増加となった。また、有線テレビジョン運営費等が減少したものの、学校給食費の公会計化に伴う学校給食食材購入費の増加や、2024プレミアム付商品券発行事業費の増加に伴い、物件費全体としては増加した。類似団体と比較し職員数や公共施設数が多いため、類似団体平均を大きく上回っている。今後は、事務事業の見直しなどによる物件費の削減及び公共施設等総合管理計画に基づく公共建築物保有量の削減による維持管理経費の削減に努める。

給与水準(国との比較)



類似団体内順位 6/10 全国市平均 98.6 全国町村平均 96.4

ラスパイレス指数の分析欄

R2年度からほぼ横ばいであり、依然として全国市平均は下回っているものの、類似団体との比較においては、僅かに平均を上回っている状況である。今後は、給与については、国や他の地方公共団体及び地域の民間企業の給与水準を考慮しながら適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

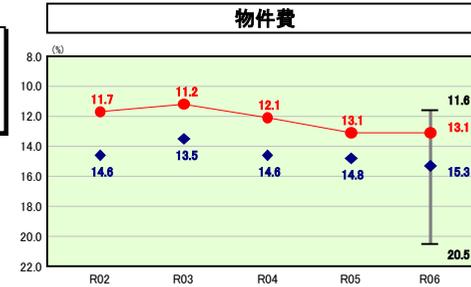
令和6年度

佐賀県唐津市

経常収支比率の分析

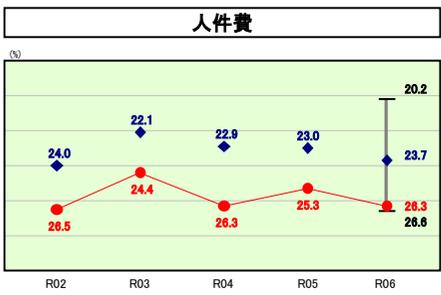
人口	113,890	人(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	112,721	人(R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	487.58	km ²	実質公債費比率	14.3	%
歳入総額	89,713,035	千円	将来負担比率	117.5	%
歳出総額	86,880,713	千円	市町村類型	R02 Ⅲ-1 R03 Ⅲ-1 R04 Ⅲ-1	
実質収支	1,784,935	千円	(年度毎)	R05 Ⅲ-1 R06 Ⅲ-1	
標準財政規模	35,447,284	千円			
地方債現在高	85,684,727	千円			

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



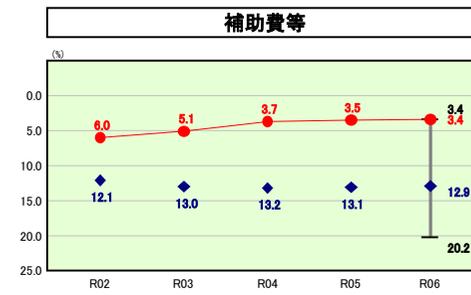
物件費の分析欄

R6年度の物件費に係る経常収支比率は、学校給食食材購入費等が増加したものの、R5年度と同率の13.1%となった。また、類似団体平均との比較においては、2.2ポイント低くなっている。今後、老朽施設の維持管理経費は増加する見込みであるため、財政計画や公共施設等総合管理計画に基づき、徹底した事業選択やスクラップアンドビルドを実施し、経費削減に努める。



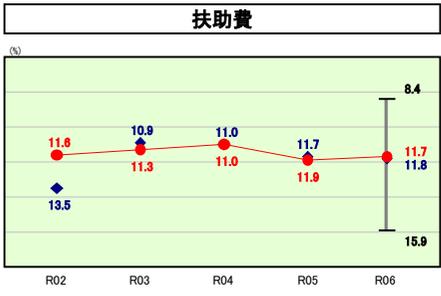
人件費の分析欄

R6年度の人件費に係る経常収支比率は、類似団体平均より2.6ポイント高い26.3%となっている。消防や清掃など一部事務組合によらず、自前で行っている業務が多いため人口千人当たりの職員数が類似団体と比較して多くなっている。大型合併後、唐津市定員適正化計画を策定し、職員数を削減してきたが、今後は行政サービスの低下や市政の運営に支障をきたさないことを念頭に、公務員制度の見直しなどにも対応し、適正な規模を確保しつつ、組織機構の見直しや業務改革などを進めるなかで人件費の適正化に努める。



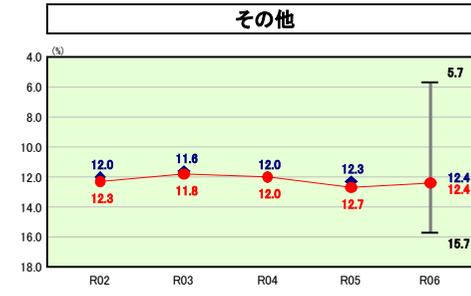
補助費等の分析欄

R6年度の補助費等に係る経常収支比率は、生活保護事業国庫負担金等返還金などの減少により、R5年度より0.1ポイント下がり、3.4%となった。また、類似団体平均と比較すると9.5ポイント下回っているが、その理由としては、合併市町村で構成していた一部事務組合の事務を合併後直営で行っており、負担金が著しく低いためである。今後は、各種団体などに対する補助金について、過剰、不相当なものがないか全庁的に同一基準で見直しができる方針に基づき、経費削減に努める。



扶助費の分析欄

R6年度の扶助費に係る経常収支比率は、障害福祉サービス費等が増加したが、各種給付金給付事業費などの減少により、R5年度より0.2ポイント下がり、類似団体平均と比較しても0.1ポイント下回った。今後も、子育て分野、高齢者福祉、障がい者福祉等各分野で増加が見込まれることから、適正な執行などにより、経費削減に努める。



その他の分析欄

その他に係る経常収支比率は、R5年度より0.3ポイント下がり、類似団体平均と同率である。内訳は、後期高齢者医療や介護保険などの特別会計への繰出金が多いが、高齢化の進展に伴い医療費や給付費がますます増加していく見込である。今後は保険料や使用料などの適正化による経営の健全化を図るとともに、経費削減などを行い、繰出金の抑制に努める。



公債費の分析欄

R6年度の公債費に係る経常収支比率は、R5年度と同率の22.8%となった。類似団体平均と比較すると4.5ポイント上回っており、地方債の現在高も高い水準で推移している。現在活用している地方債は、旧合併特別債など交付税入額が大きいものを中心であり、実負担は軽減されているが、合併特別債終了後の代替財源が今後の課題である。今後も、唐津市財政計画の数値を目標に公債費の抑制に努める。



公債費以外の分析欄

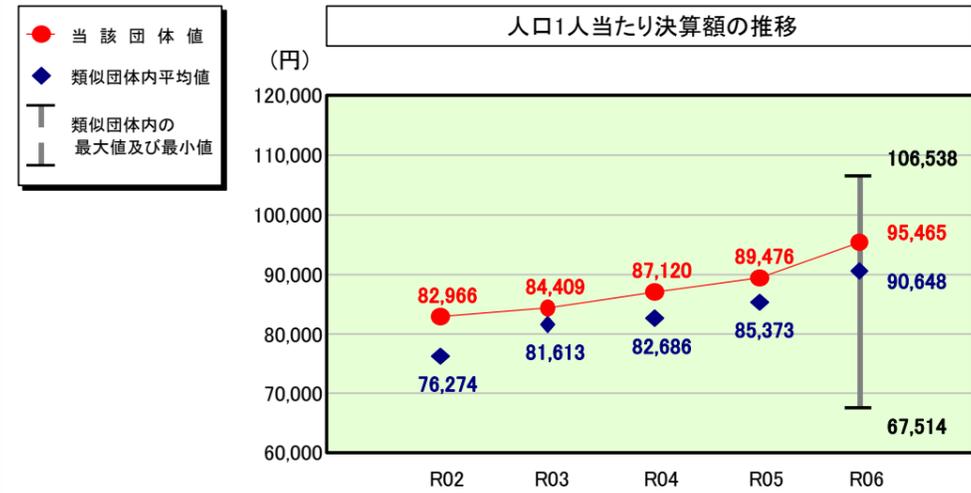
公債費以外に係る経常収支比率は、R5年度より0.4ポイント増加している。この要因については、各項目に記載したとおりであるが、扶助費や物件費の増加が主な要因である。また、類似団体と比較して数値が低いということは、言い換えれば公債費の占める割合が高いということであり、今後は、事業の選択と集中により公債費の抑制に努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和6年度

佐賀県唐津市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

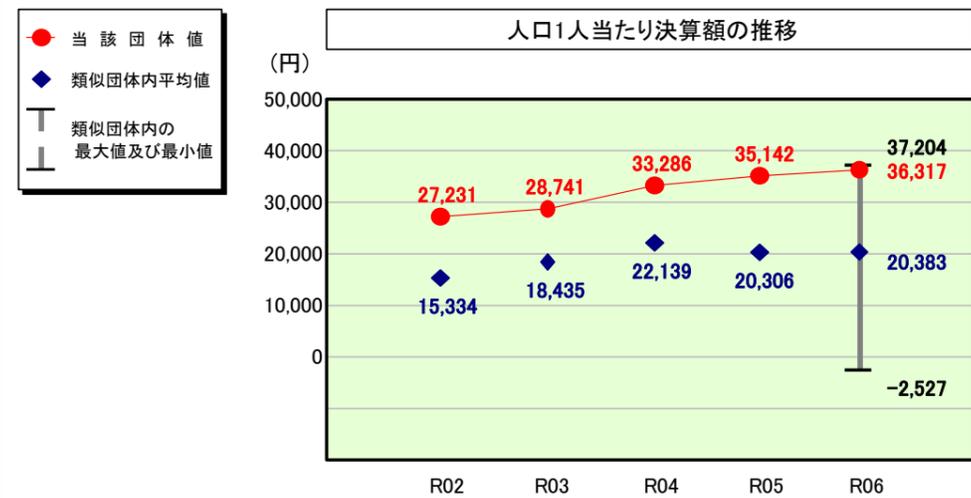
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
人件費	11,165,691	98,039	81,492	20.3
一部事務組合負担金(補助費等)	498	4	7,524	▲99.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	7,429	65	1,686	▲96.1
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	253,971	2,230	2,399	▲7.0
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	153,493	1,348	2,696	▲50.0
▲退職金	▲708,583	▲6,222	▲5,149	20.8
合計	10,872,499	95,465	90,648	5.3

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	10.04	8.09	1.95
ラスパイレス指数	97.8	97.7	0.1

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

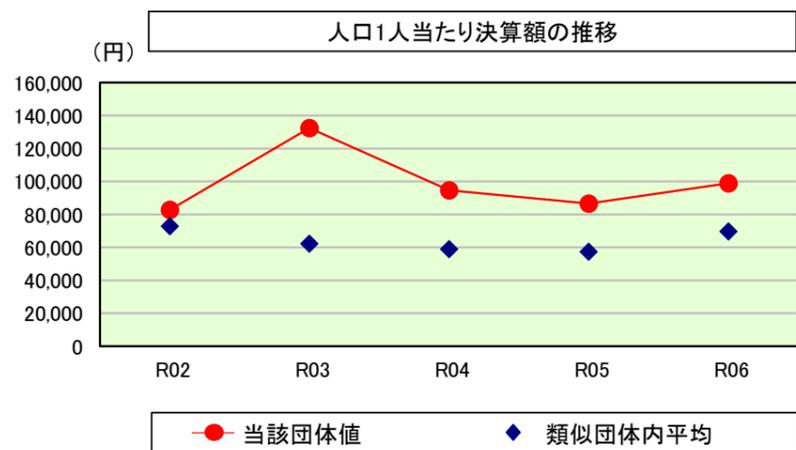
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	8,408,216	73,828	58,155	27.0
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	24	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	2,613,451	22,947	14,569	57.5
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	839	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	19,601	172	496	▲65.3
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲211,907	▲1,861	▲3,924	▲52.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲6,693,188	▲58,769	▲49,778	18.1
合計	4,136,173	36,317	20,383	78.2

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	類似団体平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
R02	9,919,762	82,755	6.5	72,756	1.0	5.5
うち単独分	6,716,342	56,031	22.7	32,117	▲5.9	28.6
R03	15,675,133	132,391	60.0	62,281	▲14.4	74.4
うち単独分	11,969,417	101,093	80.4	38,152	18.8	61.6
R04	11,066,123	94,605	▲28.5	58,940	▲5.4	▲23.1
うち単独分	7,558,761	64,620	▲36.1	33,486	▲12.2	▲23.9
R05	10,003,410	86,628	▲8.4	57,336	▲2.7	▲5.7
うち単独分	8,200,319	71,014	9.9	34,481	3.0	6.9
R06	11,270,911	98,963	14.2	69,665	21.5	▲7.3
うち単独分	8,677,082	76,188	7.3	39,225	13.8	▲6.5
過去5年間平均	11,587,068	99,068	8.8	64,196	0.0	8.8
うち単独分	8,624,384	73,789	16.8	35,492	3.5	13.3

(5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

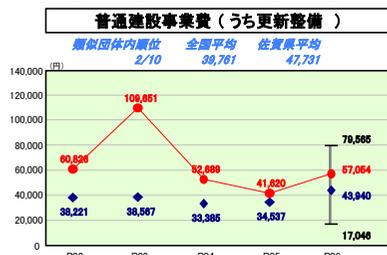
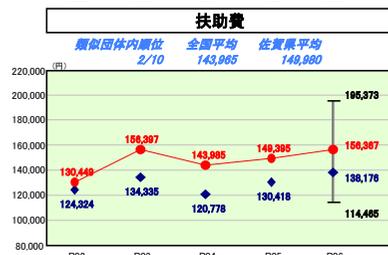
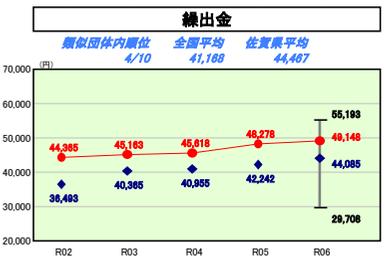
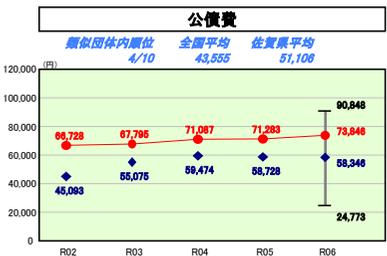
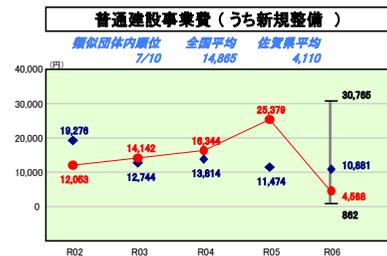
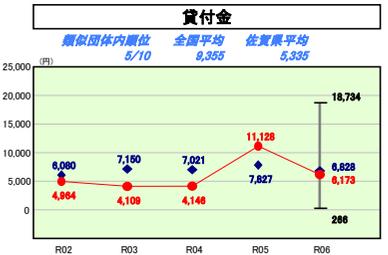
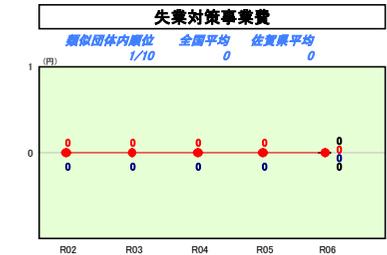
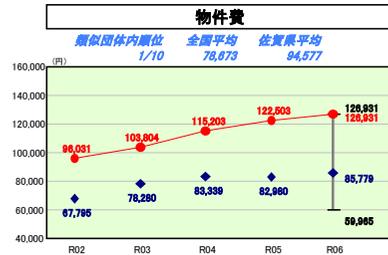
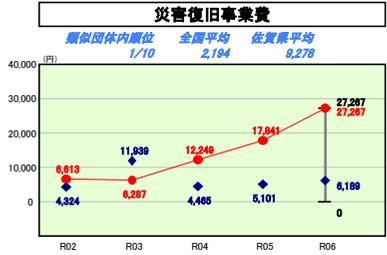
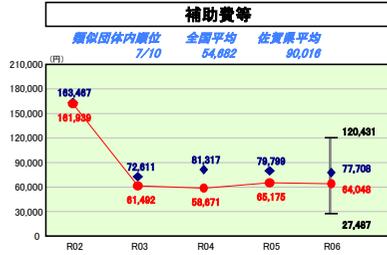
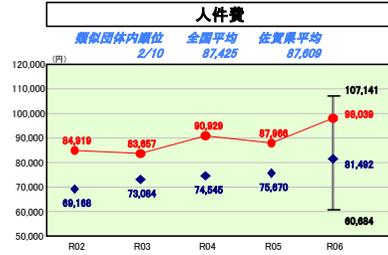
令和6年度

佐賀県唐津市

人口	113,890 (R7.1.1現在)	実質赤字比率	-	96	
うち日本人	112,721 (R7.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	96	
面積	487.58 km ²	実質公債費比率	14.3	96	
歳入総額	89,713,035 千円	将来負担比率	117.5	96	
歳出総額	86,880,713 千円	市町村類型	R02 Ⅲ-1	R03 Ⅲ-1	R04 Ⅲ-1
実質収支	1,784,935 千円	(年度毎)	R05 Ⅲ-1	R06 Ⅲ-1	
標準財政規模	35,447,284 千円				
地方債現在高	85,684,727 千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析概

歳出決算総額は、住民一人当たり782,848円。主な構成項目は次のとおりとなっている。

- ・人件費は、住民一人当たり98,039円となっており、給与改定に伴う基本給の増等の影響によりR5年度と比べ増加し、類似団体平均と比較しても依然として高い水準で推移している。要因としては、消防や清掃など一部事務組合では(直営で行っていることや、市の面積が広いことにより複数の支所を配置する必要があり、類似団体と比べ職員数が多いためと分析される。合併後、唐津市定員適正化計画を策定し、職員数を削減してきたが、今後は行政サービスの低下や市政の運営に支障をきたさないことを念頭に、公務員制度の見直しなどにも対応し、適正な規模を確保しつつ、組織機構の見直しや業務改革などを進めるなかで人件費の適正化に努める。
- ・物件費は、住民一人当たり126,931円となっており、西部学校給食センター(仮称)運営費などは減少したが、学校給食費の公費化に伴う学校給食食材購入費の増加が大きく、物件費全体としては増上している。類似団体平均と比較すると最上位となっている。
- ・補助費等は、住民一人当たり84,046円となっており、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催費等が増加したものの、生活保護事業国庫負担金等返還金、水道事業会計繰出金(借換高換付費)等の減によりR5年度より減少した。類似団体との比較では平均77,708円を13,660円下回っている。
- ・普通建設事業費は、住民一人当たり98,963円となっており、R5年度と比べ増加した。要因としては、西部学校給食センター(仮称)整備事業費、貸中校長寿命改良事業等の整備費が増加している。今後も、公共施設等総合管理計画等に基づき事業の取捨選択を徹底し、行政コストの削減に努める。
- ・公債費は、住民一人当たり51,108円となっており、類似団体平均と比較しても高い水準にある。要因としては、市町村合併後の新市の均衡ある発展を目指すため、合併特例債を活用した高層整備事業を集中的に行ってきたことによる元利償還によるものと考えられる。今後は、普通建設事業費と同様に、公共施設等総合管理計画等に基づき事業の取捨選択を徹底し、起債発行額を減じるとともに、利率の見直し等を積極的に実施し、公債費の減少に努める。

(6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

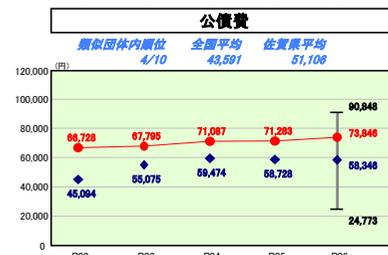
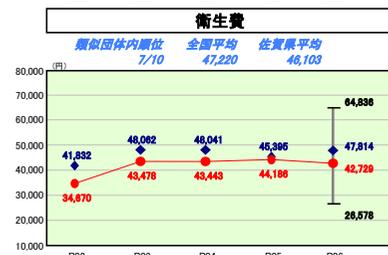
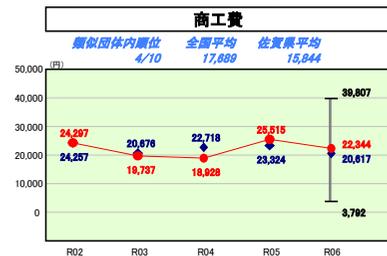
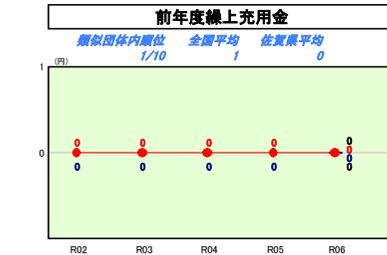
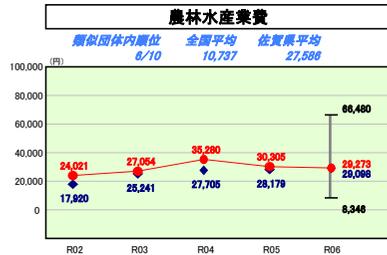
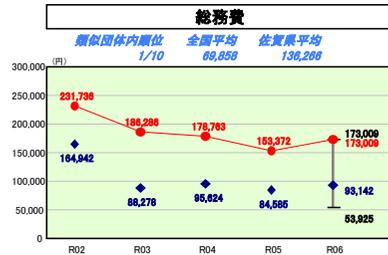
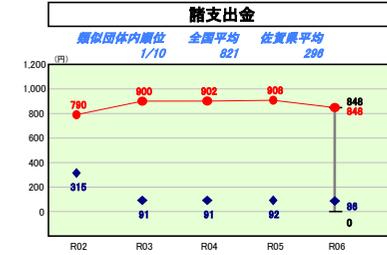
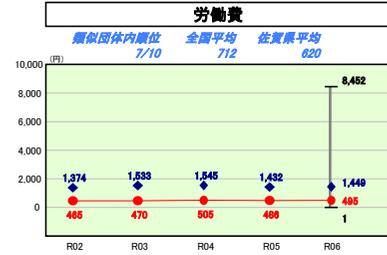
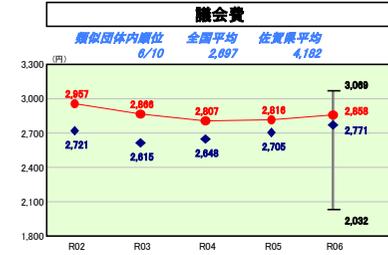
令和6年度

佐賀県唐津市

人口	113,890人(R7.1.1現在)	実質赤字比率	-	96
うち日本人	112,721人(R7.1.1現在)	道庁実質赤字比率	-	96
面積	487.58km ²	実質公債費比率	14.3	96
歳入総額	89,713,085千円	将来負担比率	117.5	96
歳出総額	86,880,713千円	市町村類型	R02 Ⅲ-1 R03 Ⅲ-1 R04 Ⅲ-1	
実質収支	1,784,935千円	(年度毎)	R05 Ⅲ-1 R06 Ⅲ-1	
標準財政規模	35,447,284千円			
地方債現在高	85,684,727千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
┌ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和6年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



目的別歳出の分析概

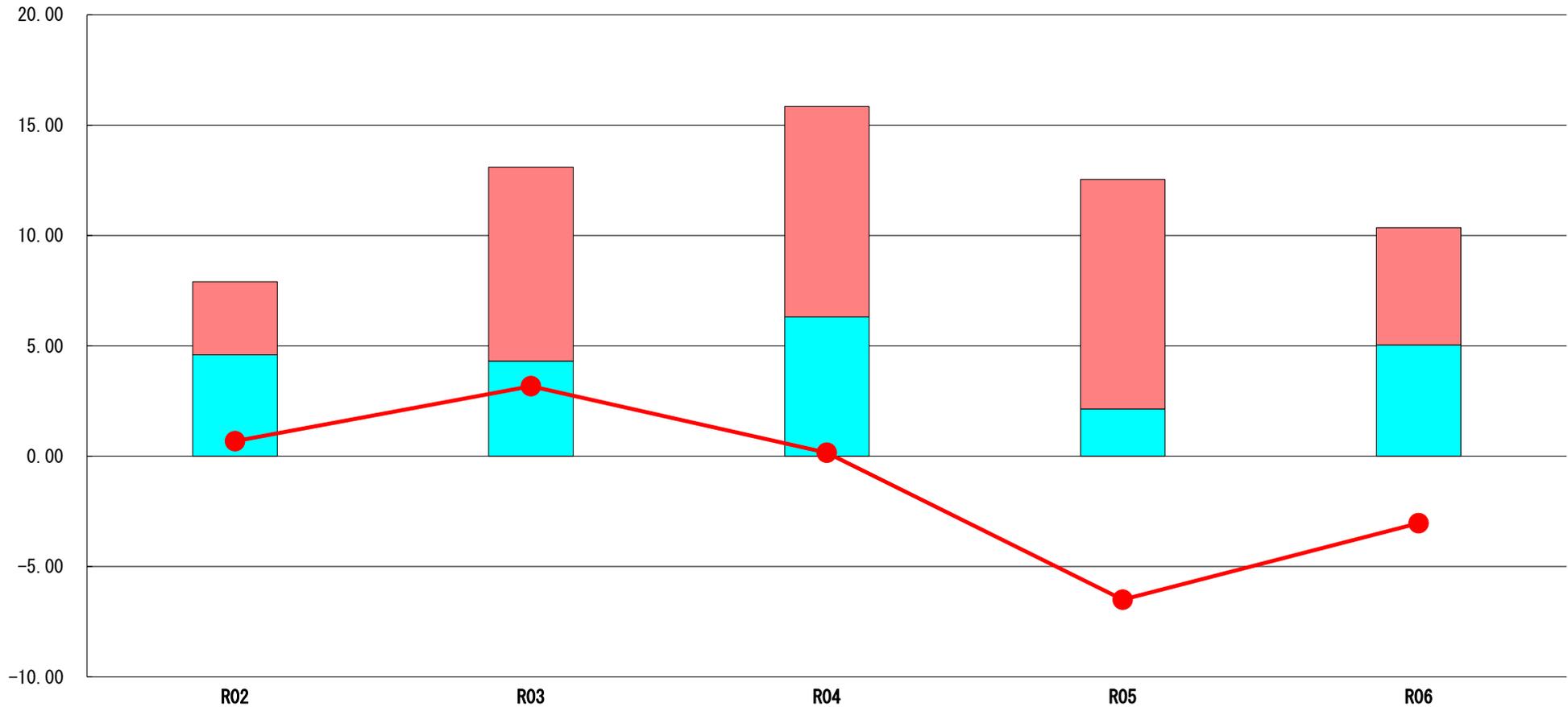
・総務費は、住民1人当たり173,009円となっており、R5年度と比較すると、審判のまちづくり基金積立金等が減少したものの、情報化基盤共働推進事業補助金の増などにより増加した。類似団体との比較では、依然として高い水準で推移している。
 ・民生費は、住民1人当たり231,032円となっており、R5年度と比較すると、令和5年度住民給付等割のみ世帯等に対する支援給付金給付事業費などが減少したものの、障害福祉サービス費等の増により増加した。類似団体との比較では高い水準にある。
 ・消防費は、住民1人当たり23,620円となっており、R5年度と比較すると、消防ポンプ格納庫建設費や高規格救急自動車事業費などが減少したものの、消防本部本署庁舎改修事業費などが増加し、住民1人当たりのコストは増加した。類似団体との比較では高い水準で推移している。
 ・教育費は、住民1人当たり83,987円となっており、R5年度と比較すると、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催費や学校給食食材購入費が増加したものの、西部学校給食センター(仮称)整備事業費等の減により、住民1人当たりのコストは減少したが、類似団体との比較では最上位となった。
 ・災害復旧費は、住民1人当たり27,267円となっており、R5年度と比較すると著しく増加し、類似団体との比較では最上位となった。これは、令和5年度及び令和6年度に発生した豪雨災害に伴う被災施設等の復旧費の増加によるものである。
 ・公債費は、住民1人当たり73,846円となっており、類似団体平均と比較しても全体的に高い水準で推移している。要因としては、市町村合併後の新市の均衡ある発展を目指すため、合併特例債を活用した基盤整備事業を集中的に行ってきたことによる元利償還金の増加と考えられる。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和6年度

佐賀県唐津市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	R02	R03	R04	R05	R06
 財政調整基金残高		3.32	8.79	9.53	10.40	5.32
 実質収支額		4.59	4.31	6.31	2.14	5.04
 実質単年度収支		0.68	3.17	0.16	▲ 6.50	▲ 3.04

分析欄

財政調整基金については、財政計画に基づき積立を行ってきたが、H27年度以降、合併特例期間の終了に伴う普通交付税の段階的縮減が始まり一般財源が減少した結果、取崩し額が増加し、基金残高が年々減少していた。しかし、R2年度以降は歳計剰余金処分などの積立額が取り崩し額を上回っており、基金残高が増加していたが、R6年度は、給与改定に伴う基本給の増等の影響により取り崩し額が積立額を上回り、基金残高が減少している。

実質収支比率については、普通交付税等の歳入一般財源が増加し、教育費等が減少したため、2.9ポイント増加し、5.04%となった。

実質単年度収支については、R6年度は、積立金取崩額が増加したものの、単年度収支が増加したため、3.64ポイント増加した。

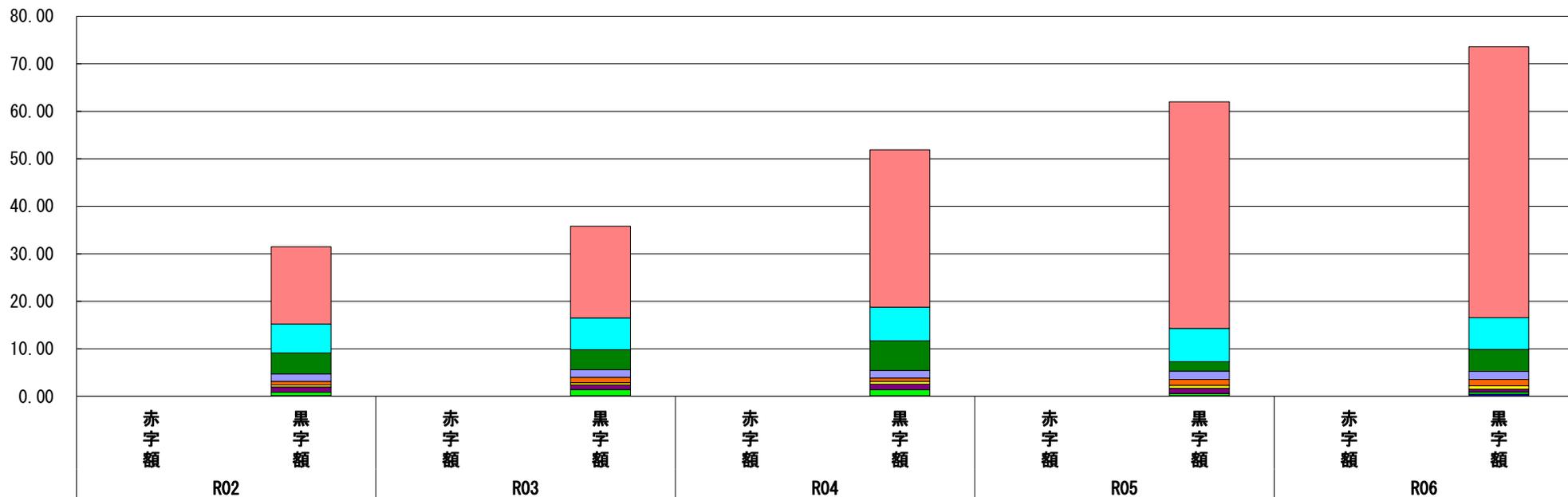
今後も、市税ほか歳入を確保するとともに、総合計画に基づく事業の重点化などにより歳出を抑制し、財政の健全化に努める。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和6年度

佐賀県唐津市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	R02	R03	R04	R05	R06
モーターボート競走事業会計		16.27	19.31	33.11	47.71	57.00
水道事業会計		6.08	6.71	7.10	6.99	6.70
一般会計		4.46	4.21	6.22	2.00	4.61
市民病院きたはた事業会計		1.54	1.58	1.62	1.74	1.69
国民健康保険特別会計		0.79	1.15	0.69	1.26	1.33
工業用水道事業会計		0.40	0.45	0.57	0.64	0.76
下水道事業会計		1.12	0.99	1.18	1.06	0.56
介護保険特別会計（普通会計除く）		0.71	1.31	1.28	0.46	0.48
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.13	0.10	0.11	0.14	0.43

分析欄

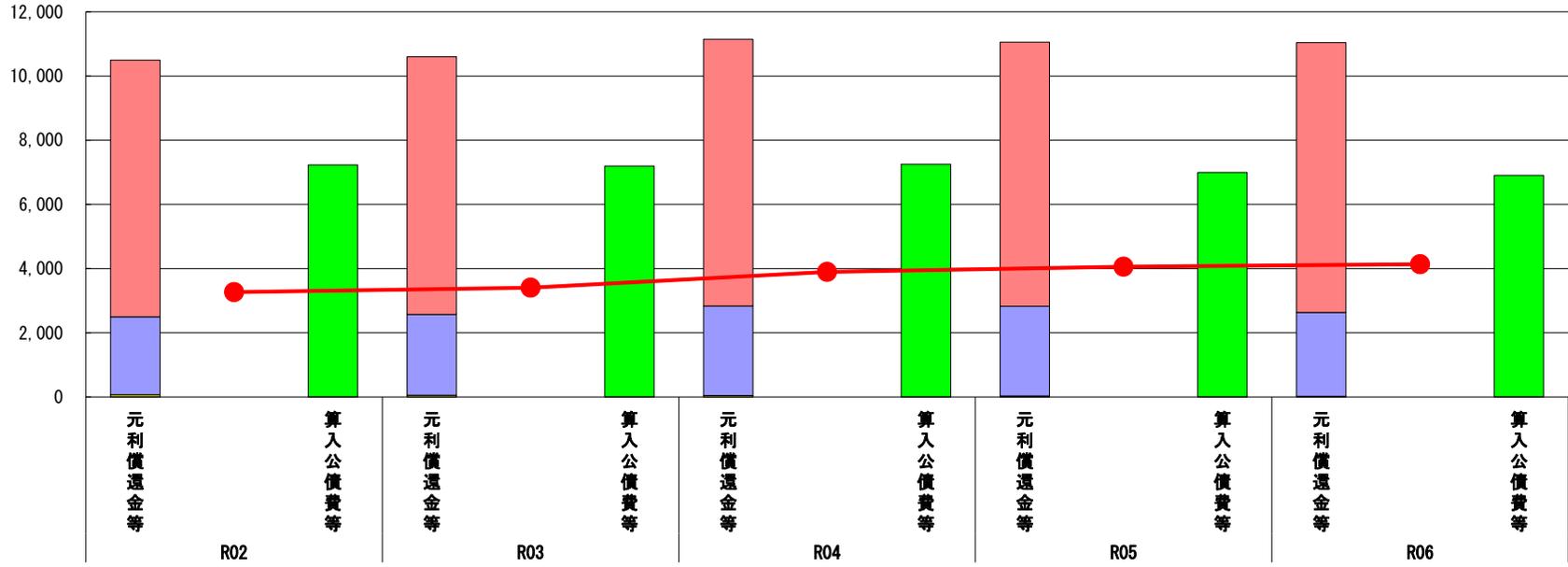
連結実質赤字比率については、長年赤字が続いていた国民健康保険特別会計がH29年度から黒字に転じたことで全会計黒字となっている。近年、モーターボート競走事業会計においては、スマートフォンやパソコンなどインターネットを使って全国から舟券を購入できる「電話投票」が定着し、一人当たりの売上単価も増加していることから、経営が安定化し収益が年々増加している。今後も、各会計において、効率的な事業運営と経営の見直しや料金の適正化などを行い、財政の健全化に努める。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和6年度

佐賀県唐津市

(百万円)



分子の構造		年度	R02	R03	R04	R05	R06
元利償還金等(A)	元利償還金		7,998	8,027	8,315	8,231	8,408
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		2,425	2,519	2,790	2,792	2,613
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		71	55	43	32	20
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		7,229	7,197	7,254	6,997	6,905
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,265	3,404	3,894	4,058	4,136

分析欄

実質公債費比率は、年々減少傾向にあったが、R4年度から増加傾向に転じ、R6年度は前年度より0.8ポイント悪化の14.3%となっている。

分子のうち、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が下水道事業会計などで減少し、(新)緊急防災・減債事業債、公共施設等適正化管理推進事業債などで増加している。

実質公債費比率は、類似団体と比較すると依然として高い水準であり、今後とも財政計画の数値を目標に公債費の抑制に努めるとともに、公営企業の経営健全化による繰出金の削減を図るなど健全な財政運営に努める。

※ 減債基金積立不足算定額=(C) × (1 - (D)/(E))

(参考)

(百万円)

		年度	R02	R03	R04	R05	R06
減債基金積立状況等(注)	満期一括償還地方債に係る実質償還額又は理論償還額のいずれか少ない額(C)		-	-	-	-	-
	前年度末減債基金残高(D)		-	-	-	-	-
	前年度末減債基金積立相当額(E)		-	-	-	-	-

分析欄

満期一括償還地方債は発行していない。

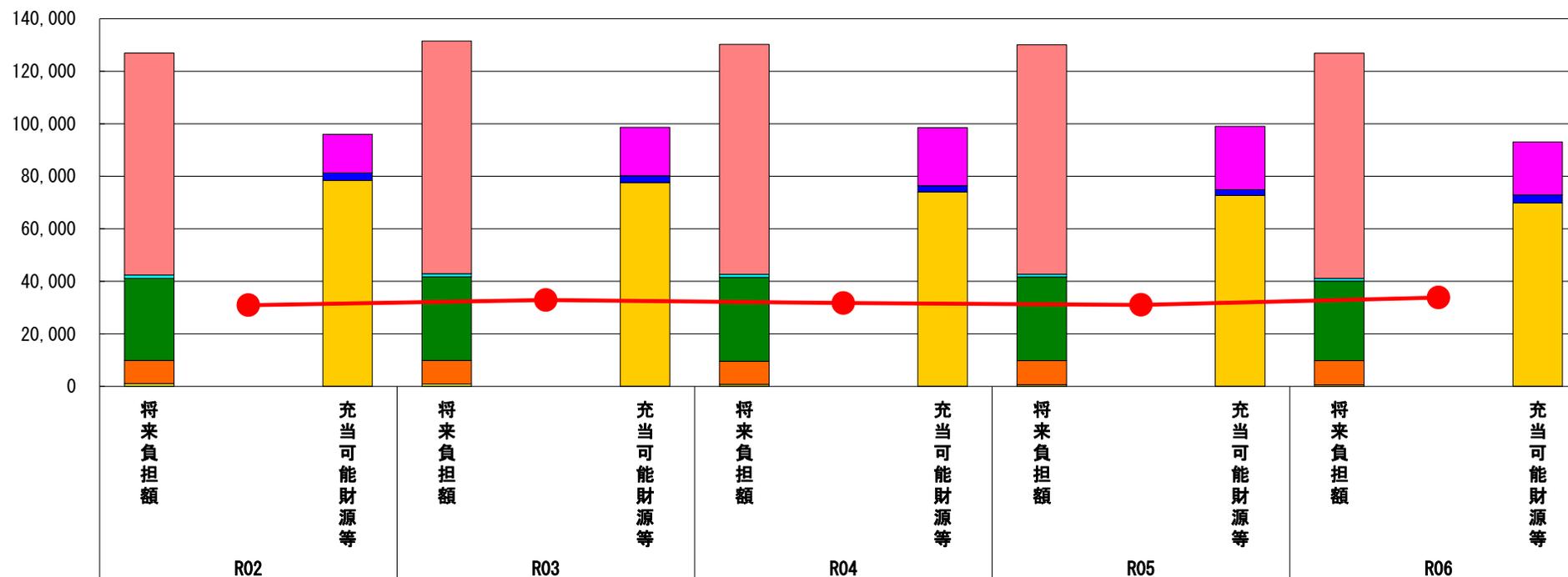
(注) 減債基金のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源に係るもののみを記入。
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和6年度

佐賀県唐津市

(百万円)



(百万円)

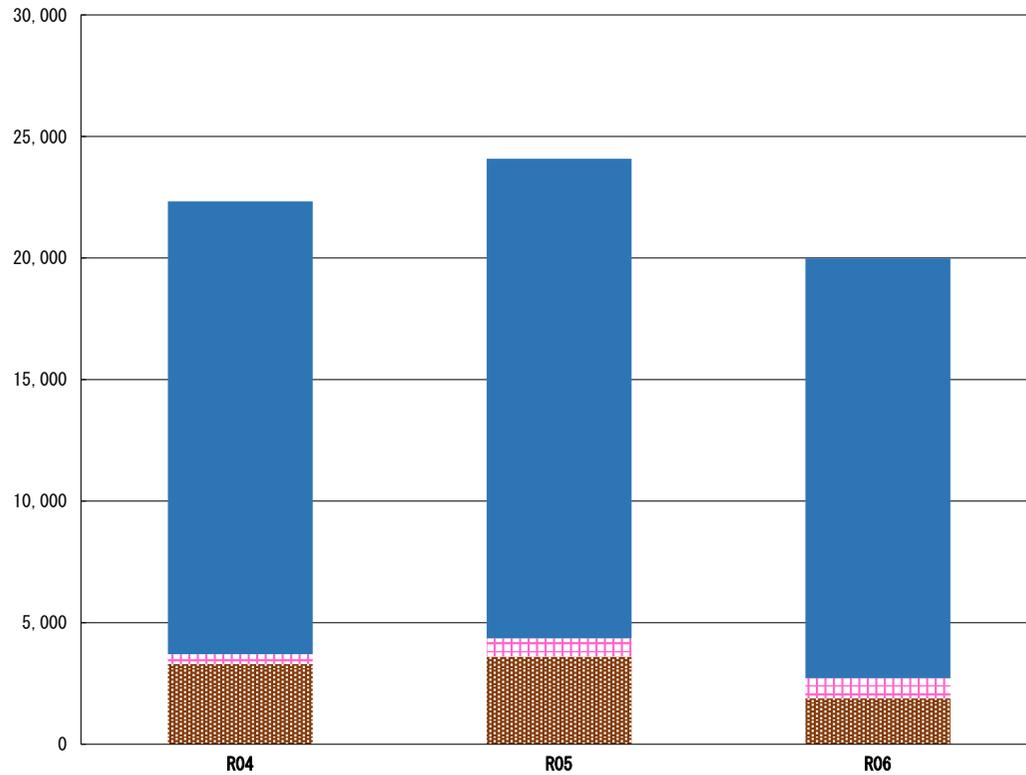
分子の構造		年度	R02	R03	R04	R05	R06
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		84,539	88,655	87,623	87,302	85,685
	債務負担行為に基づく支出予定額		1,244	1,189	1,147	1,114	1,095
	公営企業債等繰入見込額		31,277	31,809	31,921	31,804	30,304
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		8,845	9,023	8,817	9,168	9,216
	設立法人等の負債額等負担見込額		1,029	851	749	648	557
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		14,709	18,444	22,112	24,069	20,156
	充当可能特定歳入		2,939	2,589	2,385	2,186	3,049
	基準財政需要額算入見込額		78,376	77,638	74,045	72,739	69,836
(A) - (B)	将来負担比率の分子		30,910	32,857	31,714	31,042	33,815

分析欄

R6年度の将来負担比率は、前年度より6.4ポイント悪化し、117.5%となった。分子のうち地方債の現在高が減少したものの、充当可能基金も減少したことなどにより、数値が悪化している。類似団体平均と比較すると依然として高い水準で推移しており、今後は、財政計画に基づく地方債の現在高の漸減及び公営企業の経営健全化による繰出金の削減を図り、財政の健全化に努める。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	R04	R05	R06
財政調整基金		3,308	3,604	1,885
減債基金		399	749	837
その他特定目的基金		18,623	19,730	17,265
ふるさと寄附金基金		6,181	6,653	7,138
公共施設整備基金		4,280	4,140	3,610
響創のまちづくり基金		4,323	5,226	3,058
有線テレビ運営基金		1,916	1,879	1,685
福祉基金		773	774	790
基金残高合計		22,329	24,083	19,988

令和6年度

佐賀県唐津市

基金全体

(増減理由)

・R6年度末の基金残高は、19,988百万円となっており、前年度から4,095百万円の減少となっている。
 ・これは、ふるさと寄附金の増加によりふるさと寄附金基金に2,757百万円、モーターボート競走事業収益金を響創のまちづくり基金に2,002百万円を積み立てた一方、市民の連帯の強化及び地域振興を図る事業の財源として響創のまちづくり基金を4,170百万円、市がいつまでも光り輝くふるさとであり続けるための手段を講じ、もって市の更なる発展に寄与するため事業の財源としてふるさと寄附金基金を2,272百万円、財源調整基金として財政調整基金を2,120百万円、公共施設整備事業の財源として公共施設整備基金を1,532百万円を取り崩したこと等による減少などが主な要因である。

(今後の方針)

・投資的経費では、小中学校の改修や陸上競技場等体育施設の改修などの大型事業が控え、さらに扶助費でも子育て世帯の支援や高齢者、障害者福祉などの経費が増加していく見込みの中、一定規模の基金の取り崩しは不可欠なものとなっている。取り崩しに当たっては、各種計画に基づき計画的に行うとともに常に基金残高を確認しつつ実施する。

財政調整基金

(増減理由)

・R6年度末の基金残高は、1,885百万円となっており、前年度から1,719百万円の減少となっている。
 ・財政計画に基づき積立を行っており、R2以降は歳計剰余金処分などにより基金残高が増加していたが、R6年度はR5年度に発生した豪雨災害に伴う災害復旧費、市長市議選及び市債償還等の費用に充てるため当初予算において財政調整基金を繰り入れていたことに加え、人事院勧告に伴う給与費の増加等が重なり、例年より多くの取崩し額となった。

(今後の方針)

・財政調整基金の残高は、今後も人件費の上昇、物価高が想定される中、減少は避けられない状況となっている。財政計画上の見直しを維持できるよう、事業の見直し、財源の確保に努める。

減債基金

(増減理由)

・R6年度末の基金残高は、837百万円と、前年度から88百万円の増加となっている。
 ・臨時財政対策債償還費積立額が例年より増加し、取崩し額を上回ったことが要因である。

(今後の方針)

・地方債の償還計画を踏まえ、毎年度定額を取り崩す予定。

その他特定目的基金

(基金の使途)

・ふるさと寄附金基金：自然環境を保護する事業、文化遺産を保存し、及び整備する事業、青少年の健全育成に資する事業、障害者及び高齢者に優しいまちづくり事業、その他市の更なる発展に寄与する事業
 ・響創のまちづくり基金：市民の連帯の強化及び地域振興を図る事業
 ・公共施設整備基金：公共施設の整備

(増減理由)

・ふるさと寄附金基金：国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催費や特別支援教育費など130事業の財源として2,272百万円取り崩した一方で、寄附金と運用利子2,757百万円積み立てたことにより増加した。
 ・響創のまちづくり基金：情報化基盤光ケーブル推進事業補助金や予防接種費など44事業の財源として4,170百万円を取り崩した一方で、モーターボート競走事業収益金や運用利子の積立額が2,002百万円だったため減少した。
 ・公共施設整備基金：清掃センター維持管理業務費や中学校長寿命化改良事業費、道路維持改良費など76事業の財源として1,532百万円を取り崩した一方で、モーターボート競走事業収益金や運用利子の積立額が1,002百万円だったため減少した。

(今後の方針)

・ふるさと寄附金基金：寄附金額に応じて積立を行い、後年度計画的に事業充当を行う。
 ・響創のまちづくり基金：財政計画等に基づき計画的に事業へ充当を行う。また、モーターボート競走事業収益金を積み立てる予定。
 ・公共施設整備基金：財政計画等に基づき計画的に事業へ充当を行う。また、モーターボート競走事業収益金を積み立てる予定。